

延長云々以下六
輔、據閣本、雲本

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿祢忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿祢久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫
左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傳臣藤原朝臣忠平

資料No.1
3回8年9月5日配布

延喜式卷第九 神祇九

冊、原作三十、今
從閣本、雲本

神名上 宮中 京中
五畿内 東海道

天神地祇惣三千一百卅二座

社二千八百六十一處

前二百七十一座

大四百九十二座

三百四座 並預祈年。月次。新嘗等祭之案上
官幣就中七十一座預相嘗祭

一百八十八座 並預祈
年國幣

小二千六百卅座

四百卅三座 並預祈年
案下官幣

二千二百七座 並預祈
年國幣

宮中神卅六座

神祇官西院坐御巫等祭神廿三座 並大。月
次新嘗。

延喜式卷九 神祇九 神名上

延喜式卷九 神祇九 神名上

御巫祭神八座並大月次新嘗中宮東宮御巫亦同。

神産日神カムスヒノカミ

玉積産日神タマツクリノカミ

足産日神タラムスヒノカミ

御食津神ミケツノカミ

座座巫イサノカミ 祭神五座並大月次新嘗

生井神イナギノカミ

網長井神イナガキノカミ

阿須波神アスハノカミ

於大内祭之也
御門巫祭神八座並大月次新嘗

櫛石窓神ウシハマトノカミ 各一座

生嶋巫祭神二座並大月次新嘗

生嶋神イナシマノカミ

宮内省坐神三座並名神大月次新嘗

高御産日神タカミスヒノカミ

生産日神イクムスヒノカミ

大宮賣神オホミヤウヘノカミ

事代主神コトシロメノカミ

福井神社フキノカミ

波比祇神ハヒキノカミ

豐石窓神トヨイハマトノカミ 各一座

足嶋神タルシマノカミ

園、九本剛本作

眞 園神社

大膳職坐神三座並小

眞 御食津神社

社、剛本无

高倍神社タカベノカミ

造酒司坐神六座並大月次新嘗

延 大宮賣神社四座並大月次新嘗

酒殿神社二座並小

酒弥豆男神サカミツノカミ

主水司坐神一座並小

鳴雷神社ナルカミノカミ

京中坐神三座並大

左京二條坐神社二座並大月次新嘗

太詔戸命神フタノミコトノカミ

本社大和國添上郡野馬國下縣郡
太祝詞神社

延 同京四條坐神一座並大月次新嘗

延喜式卷九 神祇九 神名上

韓神社二座カラノカミ

火雷神社ホノイカツチノカミ

酒弥豆女神サカミツメノカミ

久慈眞智命神クシマチノカミ

本社坐大和國十市郡天香山
坐極眞命神

月次新嘗九本剛
本雲本補

延喜式目錄

卷第卅九	正親司 オホキミノミヤ	內膳司 ウチノカシハナリ
卷第四十	造酒司 サケノミヤ	采女司 ウケノミヤ
卷第四十一	彈正 ダンシヤウダイ	主水司 モリミヅノミヤ
卷第四十二	左右京職 サウウキヤウシヤク	東西市司 イサノツカサ
卷第四十三	春宮 ハルノミヤ	
卷第四十四	勘解由使 カンゲユシ	
卷第四十五	左右近衛府 サウウチノミヤ	
卷第四十六	左右衛門府 サウウヱモンノミヤ	
卷第四十七	左右兵衛府 サウウヱフ	
卷第四十八	左右馬寮 サウウマノミヤ	
卷第四十九	兵庫寮 ヒヤウゴ	
卷第五十	雜式 ザンシヤ	

延長五年十二月廿六日

延喜式卷第一 神祇

四時祭上

日本紀云安万乃日嗣魯
凡踐祚大嘗祭爲大祀祈年月次神嘗新嘗賀茂等祭爲中祀大忌風神鎮花三枝相嘗鎮魂鎮火道
饗國韓神松尾平野春日大原野等祭爲小祀風神祭已上並諸司齊之鎮花祭已下祭官齊之但小
凡祈年祭二月四日大忌風神祭並四月七月四日月次祭六月十二月十一日神嘗祭九月十一日其子
午卯酉等日祭各載本條自餘祭不定日者臨時擇日祭之

二月祭

祈年祭神三千一百卅二座

大四百九十二座三百四座案上官幣
一百八十八座國司所祭

小二千六百卅座四百卅三座案上官幣
二千二百七座國司所祭

神祇官祭神七百卅七座

奠幣案上神三百四座宮中卅座。京中三座。畿內。山城國五十三座。大和國一百廿八座。河內國廿三座。和泉國一座。攝津國
道。近江國五座。北陸道。若狹國一座。山陰道。丹後國一座。山陽
道。播磨國三座。安藝國一座。南海道。紀伊國八座。阿波國一座。

延喜式卷一 神祇一 四時祭上

一、據目錄及條
本九本補

祭祀
小大中

原、原作、據條本
九本改

午、九本元、條本
與此同

卅、原作三
十、今從條
本九本、下同

冊、原作四十、今
從同上、下同

1.

3 遺てる所——太宰主神司に、中臣、齋部の両氏がどのような形で任ぜられていたのかは、確かな記録がなく、不明という他ないが、本書では、この主神司の職も中臣氏が独占していたと述べているのであって、それが神代から引き継がれている奉幣の在り方と矛盾している、というのである。

諸国の大社に亦中臣を任せ、齋部を預けず。遺てる所の八也。

1 諸国の大社——『延喜神名式』に、「大四百九十二座。三百四座並預祈年、月次、新嘗等祭之案上官幣。就中七十一座預相嘗祭。一百八十八座並預祈年國幣。」「小二千六百四十座。四百三十三座並預祈年案下官幣。二千二百七座並預祈年國幣」とあるうちの「大」を指すか。

2 齋部を預けず——諸国の大社の社司に中臣ばかりが任ぜられ、齋部は小社の社司に任ぜられるばかりであることをいうか。但し、大社中にも、祭神を太玉命とする安房国の「安房坐神社 名神大。月次、新嘗、祭神太玉命」『延喜神名式』の如きものは、社司が齋部であったと思われる。

凡そ鎮魂の儀は、天鈿女命の遺趾なり。然れば則ち御巫の職は旧の氏を任すべし。而るを今、選ぶ所、他氏を論はず。遺てる所の九也。

訓読文・注釈

一三三

古語拾遺

一三四

1 鎮魂の儀——鎮魂祭の儀式のこと。↓〔補注七十〕

2 天鈿女命——鎮魂祭の儀式に猿女君が必ず加わることは、その祖天鈿女命が、天石窟の段で、天照大神の鎮魂の爲の神樂を奏した由縁による、というのである。先に引いた『延喜式』の条文中にも、猿女が舞を奏する旨の記載があり、その舞に関しては、『江家次第』に、「神祇雅樂、神樂、次御巫衝ニ宇氣、（神琴師彈ニ和琴ニ衝ニ宇氣、神遊儀也、神代上卷覆槽置之義也、以ニ賢木ニ衝ニ槽上ニ也、結ニ糸自一至十、宇麻志麻治命、十種宝振ニ之返死之縁也、用糸自一至十計ニ之也）次神祇一人、進納結ニ糸於葛宮」（自一至十）此間女官藏人開ニ御衣宮ニ振動」とあって、猿女の奉ずる舞が、天鈿女命の神樂と同一と思われるものであったことが知られる。

3 御巫の職——御巫は既出。鎮魂祭に奉仕する職。

4 旧の氏——猿女君をさす。天鈿女命の縁によって、猿女君が御巫の職につくべきだ、というのである。先に引いた『延喜四時祭式』には、「御巫及媛女等依例舞」とあるが、御巫の職に常に猿女君が就いていたのではない。

5 選ぶ所——御巫の職に就く氏を決定するのに、由緒のある猿女君を第一せず、自由考選として、というのである。『延喜臨時祭式』御巫の条に「凡御巫、御門巫、生嶋巫各一人其中宮、東宮唯有御巫各一人。取ニ庶女堪事充之。但考選准ニ散事宮人」とあって、御巫の職に猿女君を必ず任ずるとは決まっていなかったようである。

十、據原イ本條本
京本貞本補

延喜式卷三 神祇三 臨時祭

六八

〔十〕屯祝。神部不論有位無位。各調布一端。郡司各二端。子弟各一端。
凡御贖物者。每月十五日以前移於所司。廿七日受備供之。

凡諸祭。并二季大祓等料物者。五日備供之。

凡東。西。文。部。等。上。大。祓。大。刀。者。取。諸。司。主。典。已。上。者。

凡六月。十二月晦日御贖料小竹者。月廿五日以前申辨官。令山城國採進之。

凡宮主取卜部堪事者任之。其卜部取三國卜術優長者。伊豆五人。壹岐五人。對馬十人。若取在都之人者。自非卜術絕

群。不得輒充。其食人別日黑米二升。鹽二勺。妻別日米一升五合。鹽一勺五撮。

凡御巫。御門巫。生嶋巫各一人。其中宮。東宮。唯。有御巫各一人。取庶女堪事充之。但考選准散事宮人。

凡座座巫。取都下國造氏童女七歲已上者充之。若及嫁時。申辨官充替。

凡諸御巫者。各給夏時服繩一疋。冬不給。其食人別日白米一升五合。鹽一勺五撮。

凡戶座取七歲已上童男卜食者充之。若及婚時。申辨官充替。

凡諸神宮司及神主等。未滿六年。遭喪解任。不得補替。仍令祝部行事。服闋之日。復任滿限。其祿宜祝

部。一補之後。不須輒替。

凡神戶百姓。不得輒令得度。

凡觸穢惡事。應忌者。人死限卅日。自葬日。始計。產七日。六畜死五日。產三日。鳥非。其。喫。六。三。日。此。官。尋。常。忌。之。但。忌。限。其。喫。六。三。日。當。祭。時。餘。司。皆。忌。

凡弔喪。問病。及到山作所。遭三七日法事者。雖身不穢。而當日不可參入內裏。

同、條本作訪
書林本作訪

用喪

忌忌

神戶

神司

神司

神司

神司

神司

神司

神司

神司

神司

神司

神司

神司

神司

神司

條本作改

宮主

宮主

宮主

宮主

宮主

宮主

宮主

宮主

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

改葬

陳、原作陳、今意

并、原作並、今意
改、條本作前
限日、京本
林本在于未
滿下、條本貞
日、條本貞
本京本无

月事

觸穢

一司

失火

神稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

社稅

凡神社四至之內。不得伐樹木。及埋藏死人。
凡鴨御祖社南邊者。雖在四至之外。濫僧屠者等。不得居住。
凡神戶調庸充祭料并造神社及供神調度。但田租貯爲神稅。

如無神稅。即充正稅。
凡諸國神社調庸帳。及神戶計帳。祝部等名帳。每年勘造送此官。計會知實。即付返抄。
凡諸國神社隨破修理。但攝津國住吉。下總國香取。常陸國鹿嶋等神社正殿廿年一度改造。其料使用神稅。

凡觸失火所者。當神事時忌七日。
凡諸國神社調庸帳。及神戶計帳。祝部等名帳。每年勘造送此官。計會知實。即付返抄。

凡宮城內一司有穢。不可停廢祭事。
凡宮女懷妊者。散齋日之前退出。有月事者。祭日之前退下宿廬。不得上殿。其三月。九月潔齋。預前退出宮外。

凡甲處有穢。乙入其處。謂客座。下亦同。乙及同處人皆爲穢。丙入乙處。只丙一身爲穢。同處人不爲穢。乙入丙處。人皆爲穢。丁入丙處。不爲穢。其觸死葬之人。雖非神事月。不得參著諸司并諸衛陣及侍從所等。

凡緣無服殯。請暇者。限日未滿。被召參入者。不得預祭事。
凡宮女懷妊者。散齋日之前退出。有月事者。祭日之前退下宿廬。不得上殿。其三月。九月潔齋。預前退出宮外。

凡改葬及四月已上傷胎。並忌卅日。其三月以下傷胎忌七日。
凡祈年。賀茂。月次。神嘗。新嘗等祭前後散齋之日。僧尼及重服奪情從公之輩。不得參入內裏。雖輕服人。致齋并散齋之日。不得參入。自餘諸祭齋日。皆同此例。

凡緣無服殯。請暇者。限日未滿。被召參入者。不得預祭事。
凡宮女懷妊者。散齋日之前退出。有月事者。祭日之前退下宿廬。不得上殿。其三月。九月潔齋。預前退出宮外。

凡改葬及四月已上傷胎。並忌卅日。其三月以下傷胎忌七日。
凡祈年。賀茂。月次。神嘗。新嘗等祭前後散齋之日。僧尼及重服奪情從公之輩。不得參入內裏。雖輕服人。致齋并散齋之日。不得參入。自餘諸祭齋日。皆同此例。

凡緣無服殯。請暇者。限日未滿。被召參入者。不得預祭事。
凡宮女懷妊者。散齋日之前退出。有月事者。祭日之前退下宿廬。不得上殿。其三月。九月潔齋。預前退出宮外。

凡改葬及四月已上傷胎。並忌卅日。其三月以下傷胎忌七日。
凡祈年。賀茂。月次。神嘗。新嘗等祭前後散齋之日。僧尼及重服奪情從公之輩。不得參入內裏。雖輕服人。致齋并散齋之日。不得參入。自餘諸祭齋日。皆同此例。

凡緣無服殯。請暇者。限日未滿。被召參入者。不得預祭事。
凡宮女懷妊者。散齋日之前退出。有月事者。祭日之前退下宿廬。不得上殿。其三月。九月潔齋。預前退出宮外。

凡改葬及四月已上傷胎。並忌卅日。其三月以下傷胎忌七日。
凡祈年。賀茂。月次。神嘗。新嘗等祭前後散齋之日。僧尼及重服奪情從公之輩。不得參入內裏。雖輕服人。致齋并散齋之日。不得參入。自餘諸祭齋日。皆同此例。

凡緣無服殯。請暇者。限日未滿。被召參入者。不得預祭事。
凡宮女懷妊者。散齋日之前退出。有月事者。祭日之前退下宿廬。不得上殿。其三月。九月潔齋。預前退出宮外。

凡改葬及四月已上傷胎。並忌卅日。其三月以下傷胎忌七日。
凡祈年。賀茂。月次。神嘗。新嘗等祭前後散齋之日。僧尼及重服奪情從公之輩。不得參入內裏。雖輕服人。致齋并散齋之日。不得參入。自餘諸祭齋日。皆同此例。

凡緣無服殯。請暇者。限日未滿。被召參入者。不得預祭事。
凡宮女懷妊者。散齋日之前退出。有月事者。祭日之前退下宿廬。不得上殿。其三月。九月潔齋。預前退出宮外。

凡改葬及四月已上傷胎。並忌卅日。其三月以下傷胎忌七日。
凡祈年。賀茂。月次。神嘗。新嘗等祭前後散齋之日。僧尼及重服奪情從公之輩。不得參入內裏。雖輕服人。致齋并散齋之日。不得參入。自餘諸祭齋日。皆同此例。

凡緣無服殯。請暇者。限日未滿。被召參入者。不得預祭事。
凡宮女懷妊者。散齋日之前退出。有月事者。祭日之前退下宿廬。不得上殿。其三月。九月潔齋。預前退出宮外。